

「第3回小松天満宮整備計画評価委員会」の審議結果（議事要旨）について

去る、平成21年3月6日（金）に、小松市内で『第3回小松天満宮整備計画評価委員会』が開催されました。また、会議では事務局より（1）第2回委員会における課題の対応、（2）微気象環境変化、（3）施設配置計画（案）、（4）モニタリング方針等について説明があった後、各委員による審議が行われました。主な意見は次のとおりです。

出席委員：全5名中5名出席 ※印は委員長

氏名	専門分野	所属
※町村 尚	微気象学	大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻 准教授
松枝 章	植物学	愛樹技術士研究所 所長
関戸 信次	地下水	小松市文化財調査委員会委員長
中森 勉	建築学・文化財	金沢工業大学環境・建築学部建築系建築学科 准教授
鈴木 洋之	河川工学	石川工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授

○議事内容

- （1）第2回委員会における課題の対応について
- （2）微気象環境変化について
- （3）施設配置計画（案）について
- （4）モニタリング方針について

○議事要旨（主な意見）

〔各委員からの意見について〕

- （1）第2回委員会における課題の対応について

【微気象環境について】

- ・西南西や西風の再現性が低い状況であったが、現地観測による補足調査データの反映及び水管橋の詳細モデル作成により、微気象シミュレーションモデルの再現性が向上され、妥当なモデルと認められる。

【周辺環境との調和について】

- ①既存の樹木は、生育密度が高いことなどから、良好な生育状態とはいえず、移植にあたっては、移植先の状況を把握するとともに、移植の必要性についても判断する必要がある。
→専門家に相談しながら判断していきたい。

- ②CDM工法の影響については、既往調査結果によると影響なしとされているが、対象地が宙水であるということは影響が大きくなる可能性もあり、非常に懸念される。
→試験施工を予定しており、専門家のアドバイスを得ながら、樹木に対する影響も含め調査していきたい。
さらに、調査事例を集め、影響項目について整理するとともに、代替えとなる工法についても検討していきたい。
- ③利用動線の形態については、メンテナンスのことも十分考慮しながら、住民や天満宮利用者の意見を参考として、検討を行っていく必要がある。
→来年度早々に管理者を決定する予定であり、その結果をふまえて検討していきたい。

(2) 微気象シミュレーションについて

- ・強風時は、本殿屋根に対する風当たりが強くなるのは気がかりであるが、常緑広葉樹の植栽を行うことにより影響が緩和されるということであり問題ないと考えられる。
- ・弱風時は、湿度条件の変化に影響するが、現況調査結果から本殿床下の水分条件が良好であることから、雨水排水設備を十分整備すれば問題ないと考えられる。

(3) 施設配置計画（案）について

- ・利用動線については、輪中堤内の安全性確保といった観点から、2橋必要である。
- ・雨水排水流末の排水ポンプの形態は、どうなっているのか。
→今後施設管理者を明確にした上で、小松市の雨水排水計画の考え方などとも整合をとりながら検討していきたい。

(4) モニタリング方針について

- ・植物環境影響のモニタリング時期は、1ヶ月後、2ヶ月後、3ヶ月後、半年、1年後、2年後に行うのが望ましい。
- ・CDMの影響について、慎重にモニタリングしていく必要がある。

[今後の進め方について]

- ・当初、委員会は3回で終了予定であったが、景観対応や面的な施設整備内容などが検討課題として残されており、施設管理者を明確にした上で検討を進め、平成21年度中に、次回の委員会を開催し検討をお願いしたい。

以上